

浜松市障がい者自立支援協議会 西エリア連絡会

第1回全体会 会議録

- 1 開催日時 令和7年6月26日(木)午前10時00分から午前11時30分
- 2 開催場所 西行政センター 2階 21会議室
- 3 出席状況 ※敬称略

構成員 相談支援事業所まで
四季の郷
みなみ
浜松手をつなぐ育成会
好生会三方原病院
浜松市社会福祉協議会西地区センター
中央区西民生・児童委員協議会
県立浜名特別支援学校
放課後等デイサービスあゆみ
地域包括支援センター雄踏

事務局 浜松市西障がい者相談支援センター
浜松市中央福祉事業所社会福祉課西社会福祉G

オブザーバー 浜松市障がい者基幹相談支援センター

- 4 傍聴者 12人
- 5 議事内容
- 1 開会
 - 2 中央福祉事業所社会福祉課専門監挨拶
 - 3 構成員自己紹介
 - 4 報告事項
 - (1) 市自立支援協議会報告
質疑応答
 - (2) 令和6年度西センター実績報告
質疑応答

(3) 令和7年度西エリア連絡会活動について
質疑応答

(4) 日中サービス支援型 GH 評価について
質疑応答

5 その他

6 閉会

6 会議録作成者 浜松市中央福祉事業所社会福祉課西社会福祉グループ

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・無

8 会議記録

1 開 会 司会：浜松市西障がい者相談支援センター

4 報告事項

(1) 市自立支援協議会報告
資料に基づき説明

※質疑応答無し

(2) 令和6年度西センター実績報告
資料に基づき説明

<質疑応答・構成員からの主な意見>

○相談支援事業所まで

・通訳できる相談員がセンターに入り、外国籍の方の相談が増えたことについて、相談しやすくなったということ。できればセンターに通訳できる人がいるといい。

・行政からの相談が増え、行政・センター間のやり取りが増えたことについてはお互いに利便性が上がっていて win-win の状態といえる。

→浜松市西障がい者相談支援センター

:外国籍の方は、ほぼ年単位で相談できるのを待っていた方がほとんど。社会福祉課にも通訳がいるが、行政で対応できることには範囲がある。資源として、多言語できる人がいるといい。これは課題でもある。

○好生会三方原病院

・国籍にばらつきはあるのか？

→浜松市西障がい者相談支援センター

:西エリアにはスペイン語を話すペルーの方が多い印象。

○浜松手をつなぐ育成会

・ルピロにも通訳はいるのでは？

→浜松市西障がい者相談支援センター

:ルピロにもいるが対応しきれない。HICEにも1人いるが浜松市全域

をみている。スペイン語ができる人がいたが、現在はいない。

○浜松手をつなぐ育成会

- ・相談支援機能強化事業で企業や学校へ助言を行っているが、どのようなところから、どのような相談があったのか。またその後どうだったか。

→浜松市西障がい者相談支援センター

：障害のある方が働いている企業から、接し方についての相談。

学校からも生徒との接し方や、計画書を作る際に注意することについての相談。どちらも社員や先生の言っていることが本人に伝わっているのか。「はい」という返事を得られていても、伝わっていない可能性もあるという話をした。

その後については把握していない。

○浜松手をつなぐ育成会

- ・企業は人との関わりが支援の大部分を占める。今までお世話してくれた方の転勤や退職により関係が崩れるという話をよく聞く。企業も担当一人に任せきりにせず、他の人も関わり方を知ってほしい。

○相談支援事業所まど

- ・関わっている方の会社からの相談はまどにもある。

○浜松手をつなぐ育成会

- ・ジョブコーチの制度も広めてほしい。中には、会社に障害のある方がいるからジョブコーチの資格を取る方もいる。

○好生会三方原病院

- ・精神、知的の方は環境や上司が変わると調子を崩して退職する人もいる。リワークプログラムを活用して取り組む人もいる。リワークプログラムはデイケアで行っており、企業から相談があって使う人もいれば、本人からもある。医療機関から相談されて使う人もいる。

○地域包括支援センター雄踏

- ・相談の地域性のところで、雄踏の圏域だとセンターへの距離が近くて相談しやすいというところはある。包括からも相談しやすい。

○浜松手をつなぐ育成会

- ・0の地域が気になる。和地圏域など。

○相談支援事業所まど

- ・もうつながっている人も多い。つながっていて、現在相談を抱えていない家庭もある。

○中央区西民生・児童委員協議会

- ・和光町にも身体障害者が5人いるが、もうつながっているケース。桜台の件数は少ないが、地元で見守っている感じがある。湖東は高齢の方が多いため、不安で相談しているのではないかと。

○四季の郷

- ・ショートステイは和地圏域の利用者もいる。その他は利用者が市外、県外の方もいて、事業所の場所と利用者の住所はリンクしていない。

(3) 令和7年度西エリア連絡会活動について

資料に基づき説明

< 質疑応答・構成員からの主な意見 >

○みなみ

- ・支援者交流会には施設職員 1 人が参加した。他事業所の職員と交流する機会がないのですごく勉強になった。他職種からみなみに来た人ばかりなので大事な機会となった。

○県立浜名特別支援学校

- ・7月15日のこども部会の研修会に参加したかったが都合で参加できない。資料をもらいたい。

→浜松市西障がい者相談支援センター

：事例ベースのため資料はない。報告はする。

○放課後等デイサービスあゆみ

- ・支援者交流会でもう少し深く交流できる場があるとよかった。

○浜松市社会福祉協議会西地区センター

- ・支援者交流会には2人参加した。その意見はもらっていない。また部会や共同支援会議の参加で意見を出していきたい。

(4) 日中サービス支援型 GH 評価について

資料に基づき説明

< 質疑応答・構成員からの主な意見 >

○放課後等デイサービスあゆみ

- ・障害児が緊急に利用することはできるのか。

→浜松市西障がい者相談支援センター

：難しい。

5 その他

○浜松市西障がい者相談支援センター

- ・また日中サービス支援型 GH 見学会の案内をするので参加してほしい。
- ・第2回全体会の日程も「調整さん」にて流す。

○浜松市障がい者基幹相談支援センター

- ・実績の町別データは面白いデータだと思う。オープンデータで確認できる町別の障害者数も出してみるといい。そのデータは手帳所持者数のため、取得していない人は拾えない。そこをセンターが受けている。
- ・外国人の問題については全市的な課題。個別ケースを通して市に上げてほしい。通訳の確保は大きな問題であり、それとは別にやり方を考えていくべき。
- ・親亡き後の重度化、高齢化は緊急時の対応の在り方に関係する。親亡き後でもどのようにイキイキ暮らしていけるのか、西エリアから上げてほしい。
- ・GH 評価については利用者として評価することは難しい。意見を言う場

- と評価する場を分けるよう、在り方を変えていくことを検討している。
- ・障害児について、GHによってショートステイの受入れをしているところはあがるが、緊急時は児童相談所での対応が基本となっている。
 - ・いろいろな意見を言ってもらい、すごく活発な全体会となった。

6 閉 会 浜松市西障がい者相談支援センター

以上